

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-508 改2
提出年月日	平成30年9月7日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所 工事計画審査資料
原子炉格納施設のうち
圧力低減設備その他の安全設備の
原子炉格納容器調気設備
(不活性ガス系)

(本文)

原子炉格納施設

3 圧力低減設備その他の安全設備

(8) 原子炉格納容器調気設備

(8.1) 不活性ガス系

ニ 主要弁

・常設

ホ 主配管

・常設

(8) 原子炉格納容器調気設備に係る次の事項

(8.1) 不活性ガス系

ニ 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

・常設

			変更前	変更後
名 称			2-26B-2* ¹	変更なし
種 類	—		止め弁* ²	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.31* ³	
最 高 使 用 温 度	℃		171* ³	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A	
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱* ⁴	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法		—	空気作動	
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-2 不活性ガス系* ³	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m* ³	
	溢水防護上の区画番号	—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 14.20 m以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（ドライウエル）管 格納容器外」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「材料」と記載。

			変更前	変更後
名 称			2-26B-9* ¹	変更なし
種 類	—	止め弁* ²		
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.31* ³		
最 高 使 用 温 度	℃	171* ³		
主 要 寸 法	呼 び 径	—	80 A	
材 料	弁 箱 厚 さ	mm	[]	[]
	弁 箱 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱* ⁴	—	[]	[]
	弁 箱	—		
駆 動 方 法			空気作動	変更なし
個 数			1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-9 不活性ガス系* ³	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m* ³	
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	—	—	RB-2-9
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 14.20 m以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（ドライウエル）管 格納容器外」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「材料」と記載。

			変更前	変更後
名 称			2-26B-12* ¹	2-26B-12* ²
種 類	—		止め弁* ³	変更なし
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.31* ⁴	変更なし 0.62* ⁶
最 高 使 用 温 度	℃		171* ⁴	変更なし 200* ⁶
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A	変更なし
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱* ⁵	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法			空気作動	電気作動／手動
個 数			1	変更なし
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-12 不活性ガス系* ⁴	変更なし
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 29.00 m* ⁴	
	溢水防護上の区画番号	—	—	RB-4-3
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 29.90 m 以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス排気（ドライウエル）管 格納容器外」と記載。

*2：圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）及び原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置，耐圧強化ベント系）と兼用する。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「材料」と記載。

*6：重大事故等時における使用時の値を示す。

			変更前	変更後
名 称			2-26B-5* ¹	変更なし
種 類		—	止め弁* ²	
最 高 使 用 圧 力		MPa	0.31* ³	
最 高 使 用 温 度		℃	171* ³	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A	
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱* ⁴	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法		—	空気作動	
個 数		—	1* ⁵	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-5 不活性ガス系* ³	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 8.20 m* ³	
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	—	—	RB-1-1
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 8.30 m 以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（サブプレッションプール）管格納容器外」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「材料」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には2-26B-3、2-26B-4の個数を含めた「3」と記載。

			変更前	変更後
名 称			2-26B-6* ¹	変更なし
種 類	—		止め弁* ²	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.31* ³	
最 高 使 用 温 度	℃		171* ³	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	80 A	
材 料	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 箱 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱* ⁴	—		
	弁 箱 厚 さ	—		
駆 動 方 法		—	空気作動	変更なし
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-6 不活性ガス系* ³	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 8.20 m* ³	
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	—	—	RB-1-1
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 8.30 m 以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（サブプレッションプール）管格納容器外」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「材料」と記載。

			変更前	変更後
名 称			2-26B-10* ¹	2-26B-10* ²
種 類		—	止め弁* ³	変更なし
最 高 使 用 圧 力		MPa	0.31* ⁴	変更なし 0.62* ⁶
最 高 使 用 温 度		℃	171* ⁴	変更なし 200* ⁶
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A	変更なし
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱* ⁵	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法			空気作動	電気作動/手動
個 数			1	変更なし
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-10 不活性ガス系* ⁴	変更なし
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 8.20 m* ⁴	
	溢水防護上の区画番号	—		RB-1-2
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	EL. 8.85 m 以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス排給（サブプレッションプール）管格納容器外」と記載。

*2：圧力低減設備その他の安全設備の**圧力逃がし装置**（格納容器圧力逃がし装置）及び原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置，耐圧強化ベント系）と兼用する。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「材料」と記載。

*6：重大事故等時における使用時の値を示す。

			変更前*	変更後
名 称			2-26B-7	変更なし
種 類	-		止め弁	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.31	
最 高 使 用 温 度	℃		171	
主 要 寸 法	呼 び 径	-	80 A	
材 料	弁 箱 厚 さ	mm	□	□
	弁 箱 厚 さ	mm		
駆 動 方 法	弁 箱	-	空気作動	変更なし
	弁 箱	-		
個 数	-		1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	-	2-26B-7 不活性ガス系	
	設 置 床	-	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m	
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	-	-	RB-2-8
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	-		EL. 14.00 m以上

注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

			変更前*	変更後	
名 称			2-26B-1	変更なし	
種 類		—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力		MPa	0.31		
最 高 使 用 温 度		℃	171		
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A		
	弁 箱 厚 さ	mm			
	弁 ふ た 厚 さ	mm			
材 料	弁 箱	—			
	弁 ふ た	—			
駆 動 方 法			—		空気作動
個 数			—		1
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-1 不活性ガス系		
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m		
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	—	—		RB-2-8
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 14.00 m以上	

注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

			変更前*	変更後	
名 称			2-26B-8	変更なし	
種 類		—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力		MPa	1.04		
最 高 使 用 温 度		℃	171		
主 要 寸 法	呼 び 径	—	450 A		
	弁 箱 厚 さ	mm			
	弁 ふ た 厚 さ	mm			
材 料	弁 箱	—			
	弁 ふ た	—			
駆 動 方 法			—		空気作動
個 数			—		1
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-8 不活性ガス系		
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m		
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	—	—		RB-2-8
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 14.00 m以上	

注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

			変更前*	変更後	
名 称			2-26B-13	変更なし	
種 類		—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力		MPa	0.31		
最 高 使 用 温 度		℃	171		
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A		
	弁 箱 厚 さ	mm			
	弁 ふ た 厚 さ	mm			
材 料	弁 箱	—			
	弁 ふ た	—			
駆 動 方 法			—		空気作動
個 数			—		1
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-13 不活性ガス系		
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 38.80 m		
取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	—	—		RB-5-14
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 39.10 m以上	

注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

			変更前*	変更後	
名 称			2-26B-14	変更なし	
種 類		—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力		MPa	0.31		
最 高 使 用 温 度		℃	171		
主 要 寸 法	呼 び 径	—	600 A		
	弁 箱 厚 さ	mm	□		
	弁 ふ た 厚 さ	mm			
材 料	弁 箱	—			
	弁 ふ た	—			
駆 動 方 法			—		空気作動
個 数			—		1
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2-26B-14 不活性ガス系		
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m		
	溢水防護上の区画番号	—	—		RB-5-14
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 39.10 m以上	

注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

(8) 原子炉格納容器調気設備に係る次の事項

(8.1) 不活性ガス系

ホ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料 (常設及び可搬型の別に記載し, 可搬型の場合は, 個数及び取付箇所を付記すること。)

・常設

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
不 活 性 ガ ス 系	*3 弁 2-26B-1 ～ 弁 2-26B-2 及び ドライウエルパー ジ ライン合流点	310*1	171	609.6	<input type="text" value=""/> (9.5*2, *5)	SM41B	変更なし				
	*3 ドライウエルパー ジ ライン合流点 ～ 弁 2-26B-5	310*1	171	609.6	<input type="text" value=""/> (9.5*2, *5)	SM41B	変更なし				
	*3 弁 2-26V-1 及び 弁 2-26V-2 ～ 弁 2-26B-3 及び 弁 2-26B-4	310*1	104.5	609.6	<input type="text" value=""/> (9.5*2, *5)	SM41B	変更なし				
	*3 弁 2-26B-3, 弁 2-26B-4 及び弁 2-26B-5 ～ サプレッション・チェンバ 側窒素供給配管合流点	310*1	104.5	609.6	<input type="text" value=""/> (9.5*2)	SM41B	変更なし				
	*6 弁 2-26B-6 ～ 窒素ガス代替注入系 配管合流点	310*1	104.5	89.1	5.5*2	STPT410*7	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
			—		89.1*8	5.5*2, *8				STPT410*8	
						不 活 性 ガ ス 系					

変 更 前						変 更 後								
名 称	最高使用 圧 力	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料			
*6 窒素ガス代替注入系 配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ側 窒素供給配管合流点	310*1 (kPa)	104.5	—			*9 窒素ガス代替注入 系配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ側 窒素供給配管合流点	変更なし 620*10 (kPa)	変更なし 200*10	89.1	5.5*2	STPT42	89.1	5.5*2	STPT410
			/89.1	/5.5*2					/60.5	/5.5*2				
*3 サプレッション・チェンバ 側窒素供給配管合流点 ～ 原子炉格納容器	310*1 (kPa)	104.5	609.6	□ (9.5*2, *5)	SM41B	*9 サプレッション・チェンバ側 窒素供給配管合流点 ～ 原子炉格納容器	変更なし 620*10 (kPa)	変更なし 200*10	変更なし			変更なし		
			609.6*4	□ (9.5*2, *4)	SM41B*4				変更なし			変更なし		
			/508.0*4	□ (9.5*2, *4)	SM41B*4				変更なし			変更なし		
*3 弁 2-26B-2 ～ ドライウエルメイク アップライン合流点	310*1 (kPa)	171	609.6	□ (9.5*2, *5)	SM41B	変更なし								
			609.6*4	□ (9.5*2, *4)	SM41B*4	変更なし								
			/508.0*4	□ (9.5*2, *4)	SM41B*4	変更なし								
*3 ドライウエルメイク アップライン合流点 ～ 原子炉格納容器	310*1 (kPa)	171	609.6	□ (9.5*2)	SM41B	変更なし								
			609.6*4	□ (9.5*2, *4)	SM41B*4	変更なし								
			/508.0*4	□ (9.5*2, *4)	SM41B*4	変更なし								
*6, *16 窒素供給設備 ～ 弁 2-26B-7 及び 弁 2-26B-8	1.81*1 (MPa)	40	60.5	2.8*2	SUS304TP	変更なし								
		66	139.8	5.0*2	SUS304TP									
	1.04*1 (MPa)	66	21.7	2.1*2	SUS304TP									
			165.2	7.1*2	SUS304TP									
			21.7	2.1*2	SUS304TP									
			165.2	7.1*2	STPT42									
			21.7	3.7*2	STPT42									
			34.0	3.4*2	STPS42									
			89.1	5.5*2	STPT42									
			60.5	3.9*2	STPT42									
			89.1	5.5*2	STPT410*7									
			457.2	□ (9.5*2)	SM41B									
318.5	10.3*2	STPT42												
114.3	6.0*2	STPT42												
						— *12								

不
活
性
ガ
ス
系

不
活
性
ガ
ス
系

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
弁 2-26B-7 ～ 弁 2-26B-6 及び 弁 2-26B-9	310*1	171	89.1	5.5*2, *5	STPT410*7	変更なし					
			89.1*11	5.5*2, *11	STPT410*7						
			/89.1*11	/5.5*2, *11							
			/89.1*11	/5.5*2, *11							
弁 2-26B-9 ～ ドライウエルメイク アップライン合流点	310*1	171	89.1	5.5*2	STPT410*7	変更なし					
			89.1	5.5*2	STPT42						
弁 2-26B-8 ～ ドライウエルパージ ライン合流点	310*1	171	457.2	□(9.5*2)	SM41B	変更なし					
原子炉格納容器 ～ 弁 2-26B-12	310*1	171	609.6*4	□(9.5*2, *4)	SM41B*4	原子炉格納容器 ～ 弁 2-26B-12	変更なし 620*10	変更なし 200*10	変更なし		
			/508.0*4	□(9.5*2, *4)							
			609.6	□(9.5*2, *5)	SM41B						
弁 2-26B-12 ～ ドライウエル側室素ガス 代替注入系配管合流点	310*1	171	609.6	□(9.5*2)	SM41B	弁 2-26B-12 ～ ドライウエル側室素ガス 代替注入系配管合流点	変更なし 620*10	変更なし 200*10	609.6	□(12.7*2)	SM400C
原子炉格納容器 ～ 弁 2-26B-10	310*1	104.5	609.6*4	□(9.5*2, *4)	SM41B*4	原子炉格納容器 ～ 弁 2-26B-10	変更なし 620*10	変更なし 200*10	変更なし		
			/508.0*4	□(9.5*2, *4)							
			609.6	□(9.5*2, *5)	SM41B						
弁 2-26B-10 ～ サブプレッション・チェンバ 側室素ガス代替注入系 配管合流点	310*1	171	609.6	□(9.5*2, *5)	SM41B	弁 2-26B-10 ～ サブプレッション・チェンバ 側室素ガス代替注入系 配管合流点	変更なし 620*10	変更なし 200*10	変更なし		

不
活
性
ガ
ス
系

不
活
性
ガ
ス
系

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
*13 ドライウェル側窒素ガス 代替注入系配管合流点及び サプレッション・チェンバ側 窒素ガス代替注入系 配管合流点 ～ 窒素排気管合流点	310*1	171	—			*15 ドライウェル側窒素ガス 代替注入系配管合流点及び サプレッション・チェンバ側 窒素ガス代替注入系 配管合流点 ～ 窒素排気管合流点	変更なし 620*10	変更なし 200*10	60.5	□(5.5*2)	SFVC2B
			71.5	□(11.0*2)	SFVC2B						
			変更なし								
			609.6	□(12.7*2, *5)	SM400C						
			変更なし								
609.6	□(12.7*2)	SM400C									
/—	/—										
/609.6	□(12.7*2)										
609.6	□(12.7*2)	SM400C									
/609.6	□(12.7*2)										
/609.6	□(12.7*2)										
*13 窒素排気管合流点 ～ 原子炉棟換気系及び 原子炉建屋ガス処理系 分岐点	310*1	171	609.6	□(12.0*2, *5)	SM41A	*15 窒素排気管合流点 ～ 原子炉棟換気系及び 原子炉建屋ガス処理系 分岐点	変更なし 620*10	変更なし 200*10	変更なし		
—			609.6	□(9.5*2)	STPT410						
*13 原子炉棟換気系及び 原子炉建屋ガス処理系 分岐点 ～ 耐圧強化ベント系 配管分岐点	310*1	171	609.6	□(12.0*2, *5)	SM41A	*15 原子炉棟換気系及び 原子炉建屋ガス処理系 分岐点 ～ 耐圧強化ベント系 配管分岐点	変更なし 620*10	変更なし 200*10	609.6	□(9.5*2)	STPT410
			609.6	□(9.5*2)	SM400C						
			変更なし						609.6*17	□(12.7*2, *17)	SM400A*17
/609.6*17	□(12.7*2, *17)										
/—	/—										
*13 耐圧強化ベント系 配管分岐点 ～ 弁 2-26B-13	310*1	171	609.6	□(12.0*2, *5)	SM41A	変更なし					

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
不活性ガス系	*13 原子炉棟換気系及び 原子炉建屋ガス処理系 分岐点 ～ 弁 2-26B-14	310*1	171	-		不活性ガス系	変更なし	609.6 /- /609.6	609.6	□ (9.5*2)	SM400C
				609.6	□ (12.0*2)				SM41A	609.6	

注記 *1：S I 単位に換算したもの。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟換気系及び原子炉棟内より原子炉格納容器へ」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 52 年 3 月 3 日付け 52 資庁第 695 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-5-3 不活性ガス系配管の規格計算書」による。

*5：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給設備より上記配管まで」と記載。

*7：STPT42 同等材 (STPT410) への取替えを行う。

*8：エルボを示す。

*9：圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (窒素ガス代替注入系) と兼用する。

*10：重大事故等時における使用時の値を示す。

*11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*12：当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器より原子炉棟換気系及び原子炉建屋ガス処理系へ」と記載。

*14：圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置 (格納容器圧力逃がし装置) 及び原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系) と兼用する。

*15：圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (窒素ガス代替注入系) 及び圧力逃がし装置 (格納容器圧力逃がし装置) 並びに原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系) と兼用する。

*16：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

*17：本設備は既存の設備である。

表1 原子炉格納施設の主要設備リスト (44/49)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
圧力低減設備その他の安全設備	原子炉格納容器調気設備	不活性ガス系	主要弁	2-26B-2	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-9	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-12	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-5	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-6	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-10	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-7	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-1	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-8	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				2-26B-13	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
		2-26B-14	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—			
		主配管	弁2-26B-1 ～ 弁2-26B-2 及び ドライウェルパーズライン 合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
			ドライウェルパーズライン 合流点 ～ 弁2-26B-5	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
弁2-26V-1 及び 弁2-26V-2 ～ 弁2-26B-3 及び 弁2-26B-4	S		クラス3	—	—	変更なし	—	—				

表1 原子炉格納施設の主要設備リスト (45/49)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
圧力低減設備その他の安全設備	原子炉格納容器調気設備	不活性ガス系	主配管	弁2-26B-3, 弁2-26B-4 及び 弁2-26B-5 ～ サブプレッション・チェンバ側 窒素供給配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				弁2-26B-6 ～ 窒素ガス代替注入系配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				窒素ガス代替注入系配管合流点 ～ サブプレッション・チェンバ側 窒素供給配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				サブプレッション・チェンバ側 窒素供給配管合流点 ～ 原子炉格納容器	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				弁2-26B-2 ～ ドライウエル メイクアップライン合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				ドライウエル メイクアップライン合流点 ～ 原子炉格納容器	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				窒素供給設備 ～ 弁2-26B-7 及び 弁2-26B-8*3	C	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				弁2-26B-7 ～ 弁2-26B-6 及び 弁2-26B-9	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				弁2-26B-9 ～ ドライウエル メイクアップライン合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	

表1 原子炉格納施設の主要設備リスト (46/49)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後					
				設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
圧力低減設備その他の安全設備	原子炉格納容器調気設備	不活性ガス系 主配管	弁2-26B-8 ～ ドライウエル パージライン合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	
			原子炉格納容器 ～ 弁2-26B-12	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			弁2-26B-12 ～ ドライウエル側 窒素ガス代替注入系配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			原子炉格納容器 ～ 弁2-26B-10	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			弁2-26B-10 ～ サプレッション・チェンバ側 窒素ガス代替注入系配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			ドライウエル側 窒素ガス代替注入系配管合流点 及び サプレッション・チェンバ側 窒素ガス代替注入系配管合流点 ～ 窒素排気管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			窒素排気管合流点 ～ 原子炉棟換気系及び原子炉建屋 ガス処理系分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			原子炉棟換気系及び原子炉建屋 ガス処理系分岐点 ～ 耐圧強化ベント系配管分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			耐圧強化ベント系配管分岐点 ～ 弁2-26B-13	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			原子炉棟換気系及び原子炉建屋 ガス処理系分岐点 ～ 弁2-26B-14	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—

表1 原子炉格納施設の主要設備リスト (49/49)

設備区分		系統名	機器区分	名称	変更前				変更後			
					設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
					耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
その他の安全設備 圧力低減設備	圧力逃がし装置	代替水源供給設備	主配管	-	-	-	-	取水用5mホース	-	-	可搬/緩和	SAクラス3
								送水用5m, 10m, 50mホース	-	-	可搬/緩和	SAクラス3

注記 *1: 表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針, 適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

*2: 当該ラインについては, 主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

*3: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。

*4: 管の機器クラスを示す。

*5: 管を除く配管貫通部の機器クラスを示す。

*6: 格納容器貫通部のうち管を示す。